

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200568		
法人名	(株)アートジャパンナガヤ設計		
事業所名	グループホームうららびより関		
所在地	関市倉知1726		
自己評価作成日	令和元年11月22日	評価結果市町村受理日	令和2年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170200568-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して15年が経ちました。うららの理念であります「いつまでも、どこでも、その人らしく最後まで、笑顔ある暮らし」を職員一丸となり、常に専門職としてあるべき姿を目指しています。日課の散歩や1日おきの買い物、月1回のユニットごとの外出を通して、施設内に留まらず外出の機会を多く持つように努めています。10年以上の職員が半数を占め、利用者の心の安定に繋がっています。月1回、施設を開放して行う『ふれあい食堂』は、子どもから大人まで誰でも気軽に参加する事が出来、地域交流の場となっています。小学生の福祉体験、大学生の実習生受入れを行い、認知症を学ぶ機会を提供しています。2020年4月にはユニットが増床され3ユニットとなります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くに、広い商業施設のエリアがあり、利用者は職員と一緒に食材の買い出しや喫茶、回転寿司店などにも出かけている。また、ホームで開催する「ふれあい食堂」では、地域の子どもや住民と交流している。利用者は恵まれた生活環境の中で、職員の支援を受けながら、趣味の作品づくりを行ったり、身体機能維持と向上を目指して、リハビリに取り組んでいる。管理者はキャリアパス制度を導入し、目標の明確化、スキルアップと共に、職員が生き生きと働ける職場環境作りに取り組んでいる。勤続年数10年以上の職員も多く、11名が施設功労による表彰を受けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と転倒防止スローガンを掲示、毎月唱和し、初心に返って振り返るようにしている。理念の「笑顔優しくほのぼのと・・・」を常に、利用者に寄り添い、その人らしい暮らしができるよう努めている。	職員は、理念の意義を認識し、日々、支援の経過を振り返りながら、方針に沿ったケアを実践している。利用者の身体機能維持、改善できるよう支援し、その人らしく笑顔の絶えない暮らしが送れるようケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で近所の人と挨拶を交わしている。月1回の『ふれあい食堂』では、地域との交流の場になっている。学校を通じた子どもとの交流は継続をしている。自治会を通じたホーム便りの回覧は行っていない。	自治会に賛助金を納め、地元の小学生や大学生の学校行事に参加し、体験実習を受け入れている。ボランティアとの交流を継続し、夏祭りや「ふれあい食堂」は子どもたちを含めた地域交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門性を活かし、申し込みに見えた方にはアドバイスをしたり、少しでも手助けになるよう努めている。ふれ合い食堂で施設を開放し、地域の方が集える場、情報交換できる場としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は奇数月に平日・土日祝の交互に行っているが、家族の出席は少ない。行事やサービス担当者会議が前後にあると出席が多い。行政・民生委員・家族の参加を得て開催をしている。	運営推進会議を隔月に開催し、活動状況を詳細に報告している。身体拘束やヒヤリハットについては、毎回の議題とし、市の担当者や民生委員からも助言を得ている。全員からの意見や要望を聴き、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回、行政の参加があり、休日でも出席を頂いている。市・社協の災害時避難協力の依頼を受け、災害時には双方で協力しあう確認をしている。	運営推進会議には、高齢福祉課、地域包括支援センター職員の参加もある。運営の実情を報告し、災害対策などでも助言を得ている。現在、1ユニットを増設工事中であり、手続きや相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。安全面のため玄関を施錠しているが、外に出たい様子が見られたら職員と一緒に散歩へ出かける。ホームは1,2階自由に行き来できる。毎月、身体拘束の事例を元に勉強会を行い、何が身体拘束にあたるか、どのような声掛けが適切か、考える場となっている。	身体拘束や虐待防止、スピーチロックや服薬での行動の抑制をしないケアを実践している。マニュアルを整え、勉強会では具体的な事例を挙げ、問題点や対処法を話し合い、全職員に周知を図っている。外出行事の際に不穏になった場合は、職員が寄り添い、気分転換を図りながら見守っている。	職員会議で、身体拘束についての研修会を行い、全職員に周知を図っている。法令改正に伴い、身体拘束等の適正化を図るための委員会の位置付けと、指針の整備に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の勉強会で事例に基づいた検討課題を元に対応方法を学んでいる。研修会に参加した職員から職員全体に周知を図っている。気になる点は、互いに声を掛け合ったり管理者が聞き取りを行い、職員による虐待を徹底防止している。		

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受講した職員から、全職員へ周知をしている。出来るだけ多くの職員が研修に参加し、制度を理解、活用出来る様になりたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を家族と読み合わせをし確認をしている。加算の新設、料金改定等変更時は都度対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に匿名の『ご意見箱』の設置、運営推進会議欠席者に『ご意見お待ちしております』と配布している。電話や面会時に希望を話される家族が多く、内容は申し送りや気づきノートにて職員に周知をし、運営に反映するよう努めている。	利用者や家族の意見は、サービス担当者会議や面会の場で聞き、検討しながら運営に反映できるよう努めている。勤続年数の長い職員が多い事から、感謝の言葉も多く、要望にも出来る限り応えられるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議は全員参加で自由に意見が言えるコミュニケーションの場である。管理者は年2回、個人面談を行う。人事考課シートで自己評価、意見も確認し、管理者と面談を行う中で具体的に職員からの意見を聞いている。	管理者は、定例の職員会議で意見や提案を聞き、個人面談の場も設けている。また、職員とコミュニケーションを図りながら、ケアの気づきや要望を聴き、モチベーションの向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を行い、等級規準書、人事考課制度を取り入れ公平な評価を行い、これを処遇に反映し公平性、納得性、透明性のあるものにした。職種や役職に応じて期待される仕事の範囲が明確になり、モチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、未経験者、無資格者には『初任者研修』を全額負担で受講できる。新人職員には1ヶ月の研修期間を設けている。外部研修で学んだことを職員研修で発表し共有を図ったり、外部からの講師を招き勉強会を行い、資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の月1回ケアマネ会議を実施。市が主催する介護支援専門員研修への参加。県グループホーム協議会の加入、地区連絡会を通じての交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネから情報を得たり、自宅や病院、事業所に出向き事前面接を行う。本人と向き合いながら不安な気持ちを受け止め、楽しい事は共感して喜び、安心して生活して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症を確認してからサービス導入までの自宅での生活をお伺いし、又、家族の思いや要望をお伺いして関係作りの構築に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を十分に聞く。要望に出来るだけ応えれるよう柔軟な対応を心掛けている。当事業所で対応できない時は、他のサービス事業者を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からの言葉に耳を傾け、一人ひとりの思いに対応出来るように心掛けている。生活の中で役割ややり甲斐を見出せるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の様子をこまめに報告・相談し、情報の共有を行う。家族に対応して頂ける事は負担をかけないように協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会は多く気軽に会いに見える。散歩や買い物等、外出先で友人・知人と出会うこともある。来訪者の面会の際、写真を撮り居室に飾ってある。家族の協力で協会やなじみの美容院、医者へ行かれる方も見えるが、個別支援が出来ていないのが課題である	家族や親戚、知人が気軽に訪れている。ドライブでは、利用者の自宅周辺を走り、馴染みの風景に触れられるよう配慮している。家族の協力を得て、美容院に行ったり、馴染みの喫茶店では、知人や友人に出会っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者一人ひとりの性格や認知の程度を把握しており、利用者同士の関係も把握し、職員が調整役となってトラブル等を未然に防いだり、孤立する事が無いように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他事業所へ移られてもサマリー、アセスメント等を提示し、連携を図っている。退去しサービスが終了しても、ホームで協力出来る事があれば対応するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者が発した言葉、家族との会話から、気づきノートや特記事項に記載をし、職員間で共有をしている。好きなこと、得意な事は暮らしの中で取り入れるように努めている	日々の関わりの中で、利用者の意向や思いを把握し、新たな情報は「気づきノート」に記載し、全職員で共有している。利用者の得意なこと、やりたい事を自己決定できるよう支え、生き甲斐のある生活を送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のケアマネからの情報提供、事前面接での聞き取りを重視し、本人の主訴、サービスに至った経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はケース記録に記載をしている。少しでも変化が見られたときは「気づきノート」に記載をし申し送りして伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症実践者研修受講者がアセスメントと課題分析を行う。全職員によるカンファレンスでは事前に提出された意見を元に検討を行う。状態変化や入退院時は随時見直しを行う。全員の意見が反映された介護計画書の作成に努めている	サービス担当者会議には、本人・家族が毎回参加している。要望を聴きながら、職員によるアセスメントで課題を分析し、介護計画を作成している。利用者の残存機能を活かし、目標を持って暮らせるよう、見直しも随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の『介護記録表』『生活記録表』の他に、ケアの気づきは『気づきノート』を活用し情報の共有を図っている。『気づきノート』からの日常の変化を元に介護計画の見直し、評価に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に合わせたサービスが提供できるよう、利用者のニーズに合わせて支援をするよう努めている。		

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な市の介護相談員の訪問。様々な地域ボランティアの受け入れを行っている。近隣のスーパーや美容院、飲食店を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を基本としているが、認知症の進行や家族の状況の変化により訪問診療が増えている。家族と一緒に受診する際は、バイタル表(コピー)を持参し、かかりつけ医への情報提供を行う	個々に入居前のかかりつけ医を継続している。希望者は、協力医の往診を受けている。かかりつけ医への通院は家族が担い、受診時には、利用者のバイタル表を提供している。急変時には、医師と看護師、関係者が連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として正看護師を配置している。日々の健康状態や変化にも適切に対応し、些細な体調変化も見逃さないように介護職と看護職の連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを提供する。入院中の情報については病院や家族から得ている。見舞いは必ず行い、利用者の不安軽減を図っている。退院後のカンファレンスを行い、退院後の生活が安心して行えるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に『看取り指針』を提示し、『緊急時の蘇生及び終末期について意思確認』と共に家族・本人の意向を把握している。状況の変化に応じ早い段階で十分に話し合いを行い、職員全員が意思統一を最期まで安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる	契約時に本人・家族に「看取り指針」を提示し、意思の確認を行っている。状態の変化や段階に応じて、家族と関係者で支援の方針を話し合い、再度、意向を確認している。事例は少ないが、終末期の支援体制を整えながら、家族の希望、選択を優先している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送時は、個人ケースに利用者情報(既往歴・服薬状況等)をまとめ速やかに対応できる様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、避難訓練と位置づけ、火災では駐車場への避難、豪雨災害では上階への避難訓練も行っている。近くに川が流れており、昨今の豪雨災害を踏まえ対応について検討が必要である。	災害訓練は、避難誘導を重点に行い、火災時には、階下と屋外へ誘導し、浸水想定の場合は2階へ避難する訓練を実施している。広域災害の場合は、近くの公民館が避難場所になっており、災害時における避難手順と備蓄品も整えている。	近年、全国的に災害のリスクが顕著である。日頃から、気象情報等の公的機関による情報把握に努め、利用者の安全確保と共に、地域に事業所の可能な役割を発信し、相互協力の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人ひとりの性格を把握しているが、長い関わりから馴れ合いによる不適切な声かけにならないよう、職員間で意識をより良い対応を心掛けている。来訪するボランティアから利用者の個人情報漏れる事が無いよう、注意事項の説明を行っている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、声かけは短く分かりやすく、慣れ合いにならないよう心がけている。また、常に法令遵守に努め、利用者信頼関係を築きながら、プライバシーを損なわない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話やアセスメントから本人の希望や思いを引き出すよう、自己決定できる声掛けを行っている。意思表示が困難な方は、表情を読み取り自己決定できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れで生活をしているが、その人の体調や気分等に配慮をしている。散歩や入浴を拒否された方には、時間を置いてから声掛けをしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣の服選びは本人の意向、或いは職員と一緒に選ぶなど配慮をしている。ホーム隣の美容院を利用出来るが、家族の協力により馴染みの美容院を利用される方も見える。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養者が作成をし、1日おきに利用者職員で買い出しに出かける。野菜切り、配膳、食器洗い、食器拭き等、できる事をして頂いている。状態に応じてミキサー食なども提供している。職員も一緒に席で食べる。誕生日にはお好きな献立とケーキでお祝いをする	利用者は、職員と共に、食材の買い出しから食事の準備、片づけなどに関わっている。調理の際の音や匂いも、利用者の食欲増進に繋がっている。職員は、楽しい雰囲気作りを心がけ、利用者と一緒に食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分補給、体重等を記録し把握している。嚥下困難な方は、トロミの活用やミキサー食、水分摂取ゼリーの活用、食事量が少ない方は、主治医より栄養剤を処方して頂いたり、栄養食を活用し、その人にあった形態で対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは日課であり、個々に合わせたやり方で行う。夜間は義歯洗浄剤にて消毒を行う。希望者には訪問歯科による診察や口腔ケアを受けている。		

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が基本であり、夜間もポータブルの設置はなく、トイレ誘導を行っている。尿意がない人も時間を見計らって誘導を行いトイレでの排泄に努めている。入所後、リハビリパンツから布パンツに替えられた方も見える。	個々の排泄パターンに合わせ、昼夜共、声かけとトイレ誘導を行っている。利用者もまた、立位維持や歩行能力の向上を目指して、リハビリに取り組みしており、リハビリパンツから布パンツに改善した人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時の珈琲には毎日牛乳を取り入れる。食事バランスや繊維を多く含む食品、水分摂取に努めている。散歩や室内歩行、体操等で便意を促すが、下剤が必要な方は、医師の指示の元、排便間隔に応じて無理の無いように服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに15時から入浴を開始している。浴槽をまたぐ事が難しい方には2人3人介助で対応したり、一人で入れる方は見守りながら入って頂く。拒否が有る方は、時間を変更したり、利用者の体調に応じてシャワー浴、清拭等でも対応している。	入浴は1日おきに支援している。時間は、体調や気分に合わせて柔軟に変更している。自立の人は見守りで支援し、冷え性の人に配慮した対応もしている。個々の習慣やこだわりを尊重し、重度の人は、安全に入浴できるよう職員が複数で対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えている。一人ひとりの体調や希望に応じて昼寝をしたり、夜、ゆっくりテレビを見て入眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき服薬内容を一覽にし、一目で分かるようにしている。看護師がセット後、複数の確認を行い、服薬時には声に出して確認を行う。食直前薬は、マーカーで目印をし、服薬忘れが無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅で行っていたこと(食事作り、食器洗い、食器拭き、掃除、洗濯畳み等)をホームでも出来る限り行って頂き、ユニット内で役割を持って生活して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝の散歩は日課である。歩行能力に応じて、時間や距離を調整したり、シルバーカー、車椅子を用いて全員が散歩に出かける。1日おきの買い物、月1回のユニットごとの外出は気分転換となっている。個別の外出支援が出来ていないのが今後の課題である。	周辺の散歩を日課にしている。公園や学校のイベント見学、買い物や外食にも出かけている。年間行事では、季節の花見や紅葉狩りなどの外出を支援している。家族の協力を得て、一時帰宅や墓参り、法事にも出かける人もある。	

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の方は個人で現金を管理しており、自ら買い物や支払いをされる。大半の方は、現金をホーム金庫でお預かりし、必要品は選んで買って頂いている。毎月、出納帳のコピーと領収書を家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、家族への手紙を書いている。利用者が家族に、職員が近況報告をしており、家族からの返信もある。電話の取次ぎは承諾を得ている方には行う。居室でコードレスで話して頂く様プライバシーに配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口にはプランターで花を育て日光浴用にイスを置いている。リビングは自然な光が入り朝夕の風景がよく見え、風の通りも良い。壁には行事写真が掲示され、会話が弾む場となっている。特に誕生祝いの写真は一人ひとり掲示して各々利用者の存在感を大切にしている。	玄関には、花や観葉植物を飾っている。居間や廊下の壁には、行事や利用者の写真を掲示し、塗り絵やクリスマスツリー、論語の額等も飾っている。窓から、自然の風景を眺めることができ、田圃や山々の様子を見て、季節を感じるができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには大型テレビがあり、ソファに腰掛、テレビを見たり利用者同士会話をされている。一人でもゆっくり過ごす事ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境づくりを心掛けている。家具や衣類など今までと変わりなく過ごして頂けるような環境になるようご本人と職員との関係やご家族の意見を尊重している。共同生活の中でありながらも、居室に戻られると安堵されるような居室の空間を職員は大切にしている。	居室には、馴染みの家具や使い慣れた日用品を配置し、家族と相談しながら、整理整頓を心がけている。利用者の趣味の手作り作品、家族の写真や花を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目線で事故防止を図り、安全な環境で生活できるよう、段差のない手すりや家具の配置をしている。		